

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成25年10月31日 (2013.10.31)

【公開番号】特開2012-182227(P2012-182227A)

【公開日】平成24年9月20日 (2012.9.20)

【年通号数】公開・登録公報2012-038

【出願番号】特願2011-42897(P2011-42897)

【国際特許分類】

H 0 5 K 9/00 (2006.01)

H 0 5 K 5/06 (2006.01)

F 1 6 J 15/10 (2006.01)

【F I】

H 0 5 K 9/00 E

H 0 5 K 5/06 D

F 1 6 J 15/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月11日 (2013.9.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

基体 2 0 に対して、筐体 3 0 の平坦部を押圧することで、筐体 3 0 の平坦部が第 2 の部材 1 2 を圧縮変形する。この結果、筐体 3 0 の平坦部と第 2 の部材 1 2 との接触面積が増大し、電磁波遮断効果を高めることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

このとき、第 1 の部材 1 1 は、筐体 3 0 の平坦部の圧縮変形量を吸収できるように、例えば図 3 A に示した第 2 の部材 1 2 と基体 2 0 とが離隔している間隙に第 1 の部材 1 1 の変形量が突出、または図 3 B に示すようにパッキン部材 1 0 が筐体 3 0 の平坦部に沿って圧縮変形する。第 2 の部材 1 2 は、筐体 3 0 の平坦部の押圧による押し込み量に追従するように引き延ばされる。換言すると、パッキン部材 1 0 は、筐体 3 0 の平坦部の押し込み量に追従する第 1 の部材 1 1 の弾性変形性と、第 1 の部材 1 1 の弾性変形量に追従する第 2 の部材 1 2 の引っ張り変形性とを備える。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

第 2 の部材 1 2 は、第 1 の部材 1 1 上に、パッキン部材 1 0 に凸部 3 1 が当接する方向（図 4 A の上下方向）に積層されている。第 2 の部材 1 2 は、凹部 2 1 の内壁に密着している。また、第 2 の部材 1 2 は、その一部が凹部 2 1 から突出するように、第 1 の部材 1

1 に積層されている。これによって、蓋体 20 全閉時にシール材 30 が筐体 30 に対して確実に密着することができる。尚、第 2 の部材 12 には、一例として、シリコンゴム、ニトリルゴム、クロロプレンゴム等に導電性物質を複合させたものが好適に用いられる。この中でも、シリコンゴムは、耐熱、耐水及び繰り返し特性の点において他より優れるため、特に好ましい。